

## BIG DIPPER Writing Course で取り上げている

### 英語学習者に誤解されがちな英文法

#### —未来形, 受動態, 副詞(句)・接続詞を中心に—

今井 孝之

はじめに

『ここがおかしい日本人の英文法 I・II・III』(研究社刊)の中で, T.D. ミントン先生は日本の学校教育で使用されているテキストの例文のうち, 文法・語法上あるいは文脈上, 不適切な英文をいくつも挙げられている。われわれ日本人にとっては把握しづらい英語の微妙なニュアンスの差異がこの本に詳細に記述されていたことから, 同書は大きな反響を呼び, 今や中等教育の英語指導者たちの必読書といっても過言ではない。

そのミントン先生が代表著者となりわれわれ編集委員らとともに, 日本人がまちがえやすい英文法・英作文の盲点や留意点を盛り込んだ教科書が *BIG DIPPER Writing Course* である。私はミントン先生とこの教科書・指導書を執筆しているうちに, 実際の教育現場で扱われている英文には確かに不自然なものが多くあることに改めて気づかされた。

そこで本稿においては, 高校生が書くときと不自然になりがちな英文を, その文法事項とともに3点ほど挙げ, われわれの教科書・指導書ではそれらをどのように扱ったかを紹介したい。

#### 1. 未来形

will と be going to の違いを理解していない英語学習者が多いことから, 教科書(8課と GRAMMAR 1)では, ① will V, ② be going to V, ③現在進行形, ④現在形の4パターンを載せて, それぞれのニュアンスの違いを明確にしている。

まず①の will を用いる場合には, 「話している瞬間に何かを決断しているとき」, 「予測・予想をするとき」の2点に絞って扱った。

前者は「～します, ～するつもりだ」と訳す場合で, 一般的には「意志未来」と呼ばれるものだが, この呼称が誤解の生じやすいところである。will は話者がある行動をとる意志を以前から持っていた場合には

用いられない。話者がその場で判断, 言い換えれば「思いつき」で判断した場合に用いる語である。例文として指導書に I'll answer the phone. を載せ, 「(応接室で電話がいきなり鳴って) その場で即座に『僕が電話に出ます』と答える場合の表現」と解説している。

一方, 後者の will V は「～するだろう」と訳し, 一般的には「単純未来」として分類されるものだが, これも誤解が生じやすいところである。この will は, 予想した内容が外れる可能性は考えにくい「断定的予測」を示している。教科書には I think he will do a good job. 「彼はいい仕事をしてくれるだろうと思います」を載せている。もし will の持つ断定度を和らげたいならば, 副詞の probably や I think ~, I'm sure ~, I expect ~ をつけることが多い点を指導書で挙げた。逆に断定度をさらに強めなければ will certainly ~ とすればよいだろう。

なお, この「断定的予測」を表すのに, must は使えないことをここで指摘しておきたい。例えば You must be tired. という英文は「あなたは疲れているに違いない」と断定気味に和訳されがちである。しかし, この must には実際それほど「断定」するニュアンスは含まれない(「断定」ではなく「推定」しているにすぎない)。この英文の和訳は「お疲れでしょう」がふさわしい。must を用いた英文は will を用いた場合に比べ, かなり不確実な要素が多い内容になることをつけ加えておきたい。この点については指導書12課(助動詞)でも解説している。

続いて, ②の be going to V だが, これは①「あらかじめ決められた予定があって, 将来起こることがはっきりとわかっている場合」と, ②「確かな根拠がすでに存在して, そうなることが確実だという場合」に用いる。「思いつき」や「その場での断定的予測」を表す will とは, この点で大きく異なっている。教科書では They are going to get married

in June.「彼らは6月に結婚するつもりです」や、I'm afraid it's going to rain.「今すぐにも雨が降ってくると思います」といった例文を載せている。

be going to Vとwill Vとの違いをさらに鮮明にするため、指導書ではI'm going to answer the phone.を挙げ、先の①で示したI'll answer the phone.との違いを明確にした。このbe going toを用いた例文の場合は、「あらかじめ電話がかかってくること(予定)になっているので、僕がその電話に出ることになっている」と答える際などに使われる。

③の現在進行形で未来を表せるのは、ある事柄があらかじめ計画されていたり、すでにその準備が進行していたりする場合である。これは②のbe going toと意味上重なっている部分が多いことから、書き換え可能な箇所でもある。教科書にもその点をきちんと踏まえ、What are you doing (going to do) on Thursday?「木曜日は何をする予定ですか」やEXERCISESの「私の姉は来月出産する予定です」My sister is having (going to have) a baby next month.という英文において、それぞれ2通りで表現している。

しかし、この2つにも微妙なニュアンスの違いがある。現在進行形では「すでに決まっている予定の準備が着々と始まっている」のに対し、be going to Vでは単に「予定として(のみ)決まっているだけ」という差がある。つまり、現在進行形は、立てた予定が個人のスケジュールの一部になるなどして、その変更はほぼ不可能な場合に用いるため、未来の遠近には関係しなくなり、たとえ来年の予定であっても、その準備が着々と進んでいけば現在進行形を用いることになる。両者の違いをはっきりさせる例文として、I'm going to go to Paris.とI'm going to Paris.という2文を指導書に載せた。前者は「周到な準備はまだなされていないが、パリに行くことだけは決まっている」状況を表し、後者は「パリに行くのに周到な準備がなされている」状況を表すという差異が生ずる。もしもこのパリ旅行がキャンセルされれば、そのショックは現在進行形のほうがはるかに大きいことになる。

最後に④の現在時制で未来を表す場合だが、これは交通機関の発着、営業時間や催し物の日時など、公に決まっている予定などを表すときに用いる。教

科書ではMy parents' flight arrives at Tokyo International Airport at 3 p.m.を載せた。一方、指導書のほうは切り口を変えて、「団体行動の予定には通例現在形を、個人的な(準備段階にすでに入った)予定は現在進行形を用いる」と解説した。

## 2. 受動態

受動態を指導する際には、生徒に不自然な受動態を見せない・作らせないことが大事である。そこで私たちの教科書では、まずGRAMMAR 2において、「旧情報は文頭に置き、新情報は後述する」という英語の基本原則(新情報を強調するため、それを文頭に置くことはありうる)を盛り込んだ。一般的には、既出の話題を新たな話題よりも先に置くことで、文の流れは論理的になる。このことは、生徒がある内容を能動態で書くべきか受動態で書くべきか考えあぐねているときに、適切な判断が下せる基準となる。

例えばThis song is great, isn't it? One of my classmates wrote it.という例文を見てみよう。高校生には一見よさそうに見える英文だが、前半が「歌」を話題にしているのに、2文目の主語にone of my classmatesが唐突に出てくるため、自然な流れを損ねている。このようなときにこそ、既出の話題(旧情報)の「歌」を主語に置いて、It was written by one of my classmates.とすれば、文の流れが自然になることを指導したい。こうした解説を教科書のGRAMMAR 2で示し、さらに練習問題のDrillsも用意した。

さて、この「新情報を後述する」というルールは受動態の場合、by以下に置くことになる。ということは、例えば、This song was written by the teacherといった文例を生徒に示してしまうと、少々問題が出てくる。by以下に定冠詞の語句(the teacher)を置いているからで、これでは「新情報」でなくなり、「既知情報」となってしまう。すると、この英文には「驚き・意外な気持ち」のニュアンス—例えば「曲を作れるはずのない、あの先生によって書かれた」といったニュアンス—が加わってしまうことになる。by以下に旧情報を置いた受動態の文を生徒に提示してしまうと、特殊な状況設定でもしない限り、文意が不自然になることがあるため、生徒が英文を書く際にも注意させたい。

### 3. 文と文の関連性を表す副詞(句)・接続詞

副詞(句)や接続詞を用いて英文を書くときにも、英語学習者が陥りやすい落とし穴がある。ここでは2つほど挙げてみよう。

#### 3-1. 副詞と接続詞の混同

therefore, however, nevertheless, moreover に見られる誤用で、本来は副詞なのに接続詞として使ってしまうケースである。例えば「今日は月曜日です。ですから、多くの公共の美術館は閉まっています」を生徒に英訳させると、Today is Monday, **therefore**, many public museums are closed. のように、therefore を接続詞として用いてしまうことは少なくない。そこで GRAMMAR 5 では、Today is Monday. **Therefore**, many public... といったように副詞としての使い方を明示するとともに、therefore の代わりに接続詞 so を用いた例文 Today is Monday, **so** many public museums... も併記した。

そもそも、この例文は「今日は月曜日だ」としか言っておらず、「美術館が閉まっている」という主節との間に明確な因果関係(直接的な原因)があるわけではない。このような場合、副詞句 as a result や接続詞 because は適さず、since や as を使うのが妥当である。それゆえ教科書では **Since** today is Monday, ... も掲載した。

さて、therefore の表現方法を複数示すため、指導書のコラムにおいては、① therefore にセミコロンをつけた「; **therefore** ...」、②接続詞 and と therefore を組み合わせた「...**and therefore** ...」、③ therefore を文中に置いた「主語 + **therefore** + 動詞」を掲載した。

#### 3-2. 「比較・対照」と「反論・否認」の混同

on the contrary と on the other hand はしばしば取り違えられる。そもそも on the contrary は、この副詞句の前で述べられていた意見や見解を否認したり、反論したりする際に用いられる表現なのだが、「一方」「他方」「それどころか」といった日本語に惑わされてしまい、「比較・対照」を表現する場合にもこれを用いてしまうケースがある。例えば、教科書 GRAMMAR 5 で取り上げた例文「クミはスキー・リゾートに行きたがっています。一方、私は海辺のリゾートへ行きたいのです」を英訳させると、Kumi wants to go to a ski resort. **On the**

**contrary**, I would prefer to go to a seaside resort. としてしまう場合である。この例文ではクミと私が希望する訪問地を「比較」しているが、どちらかを「否認・反論」はしていない。従って、ここは on the contrary でなく、**on the other hand** や **however** あるいは **but** や **while** を用いるべきである。指導書では、前文の内容を反論・否認する例文として、“It must have been terrible.” “**On the contrary**, I enjoyed every minute.” (OALD) を載せている。こういった例文を通して、この紛らわしい副詞句を生徒たちに理解させたい。

おわりに

*BIG DIPPER Writing Course* は、以上のように英語学習者がまちがいがしやすい英文法に的を絞って編集した教科書だが、その PART 3 においては、本格的に英文のパラグラフを書く上で必要となる知識を扱っている。そこでは高校生が無理なくパラグラフの書き方、まとめ方、展開の仕方を学べるよう指導項目を配列し、英文を容易に書き出せるよう、さまざまな工夫・仕掛けを施している。

例えば、パラグラフを完成させる最初の手順として、学習者が連想する語をいくつも書き出させた後、それらを整理分類するのに「クラスタリング」を用いるよう提案している。この手法は、連想させた語句のうち、関連のあるものどうしをグループ化し、それらが主題とどのような関係にあるのかを木の枝のように実線でつなげて図式化する方法である。これは川喜田二郎氏が『発想法』(中公新書刊)で提唱している KJ 法といってもよいし、あるいは最近ではトニー・ブザン氏が提唱した「マインド・マップ」という図解表現技法ととらえてもよいだろう。

いずれにせよこうした手法を採り入れることで学習者は、論理的なパラグラフを構成するために、時系列、例示・列挙、原因と結果、比較・対照のうちのどの支持文のパターンを展開すればよいか判断しやすくなり、パラグラフを書く際に大変有効な手段となりうるのである。

パラグラフ・ライティング力を養うことを最終的な目標として、それに必要な英文法力をしっかり身につけさせるべく編集された *BIG DIPPER Writing Course* を、是非とも一読されたい。

(巣鴨中学・高等学校講師)